

## 発刊にあたって



原生林の残る奥秩父の山々、比企丘陵に広がる里山、武蔵野の面影を残す雑木林や「川の国埼玉」を代表する荒川など、埼玉県は豊かな自然環境に恵まれ、多くの種類の野生生物が生息・生育しています。

しかし、近年の急激な都市化の進展により、森林や草地、田畑の減少、河川や湖沼の水質悪化、更には外来生物による生物多様性への影響など、自然環境の変化が野生生物の生息・生育に大きな影響を及ぼしています。

その結果、以前は身近に見られた野生生物の中にも、その数を減らし、絶滅のおそれが生じているものもあります。

多様な生物が、私たちが生きるために必要な酸素や豊かな土壌を作っています。また、食品、医薬品の成分、工業の原料などとしても私たちの暮らしに役立っています。さらに、森や海の自然環境は地球の気候の安定に大きな役割を果たしています。このように、私たちの生活は生物の多様性によって支えられていますが、野生生物の減少は生態系のバランスを崩す要因になるだけでなく、私たちが受けているこうした恩恵を失わせることにもなります。

そこで、県では、平成20年に「生物多様性保全県戦略」を策定し、希少野生動植物の保護、野生鳥獣の管理、外来生物対策など様々な施策を展開しています。

また、一昨年には、2011年から2020年を「生物多様性の10年」とする国連決議が採択されるなど、自然環境の保全、種の保護への関心は世界中で高まっています。

生物多様性を保全していく取組は、決して難しいことではありません。私たち一人一人の日常生活での心掛けやちょっとした工夫がそうしたことにつながっていきます。ぜひ、身近なところから自然環境を守るための行動を起こしていただきますようお願い申し上げます。

このたび、平成20年からの3年にわたる希少野生植物の調査により、絶滅の危険度を再評価し、生育状況などを取りまとめた「埼玉県レッドデータブック2011植物編」を発行することといたしました。

本書が、野生生物とその生息状況・生育環境への理解を深め、生物多様性の保全を推進するための基礎資料として活用していただければ幸いです。

平成24年3月

埼玉県知事 上田清司